

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル（笑顔のままで）です。

Stay Smile



ステイ・スマイル

Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

長野県「信州型自然保育認定制度」施行

長野県独自の子ども支援施策「信州型自然保育認定制度」が4月からスタートしました。県内のメディアでも紹介され、目にされた方もいらっしゃるかと思います。制度の目的は、「長野県の豊かな自然環境や地域資源を積極的に取り入れた保育の普及を図ることで、信州で育つ全ての子どもが心身ともに健やかに成長できる環境を整備し、もって「子育て先進県ながの」を実現するため」とあります。「自然保育」とは、豊かな自然環境や地域資源を積極的に活用した様々な体験活動によって、子どもの感覚が豊かに刺激され、子どもの主体性、創造性、社会性、協調性等が育まれ、心身ともに健康的に成長することを目指した保育等をいい、「地域資源」とは、自然保育において子どもが体験できる各地域の伝統芸能や文化活動、農業や林業などの作業等と、それらの機会を提供し指導してくれる人材をいう、とあります。

県が、子どもたちが心も体も豊かに育つ環境として、自然の中での体験が大切だと考え、そのような環境を幼児教育や保育の場に備えることに主体的に取り組み始めたということです。また、関わる大人（人材）が自然と子育ちの関係を理解していることが必要だということです。

ふじみ子育てネットワークは、自然と子どもの育ちの関連性を認めこれまで事業展開してきましたが、県の制度が開始した今、さらに事業に積極的に取り入れ、また子ども・子育て事業に関わる人材の育成にも力を入れることで、富士見町の子どもたちの健やかな育ちの環境づくりに力を注ぎます。



Stay Smile くわんぼうの土器～そこに土器があった!

井戸尻考古館 ☎64-2044

昭和33年の井戸尻遺跡の発掘よりも前に、富士見町域ではいくつかの遺跡が発掘されていました。そこにかかわった人々を振り返りながら紹介します。

九兵衛尾根遺跡①(昭和23年～)

昭和23年のある日、鳥帽子から小六へと続く道を歩いていた武藤雄六さん、何かにつまづいて転んでしまいました。つまづいたものを見ると、何やら石とは違うものが「ちょこん」と顔を出しています。「こりゃあ、なんだなえ？」と脇の畑から“くわんぼう”（桑棒＝桑の枝）を一本拝借して、まわりを少し掘ってみると、縄文時代の大きな土器があらわれました。その翌年には畑の持ち主に頭を下げて耕作で掘り出されていた土器を、桑ビク（桑の葉を収穫する大きな背負い籠）にも収まらないほどたくさん貰ってきます。



▲“顔”が出てきた!

ここが九兵衛尾根遺跡です。昭和34年には井戸尻遺跡保存会による発掘調査が行われ、5件の居住址から数多くの土器や石器が見つかりました。土偶や見事な顔面把手が出土した、と当時の新聞にも報じられています。



▲セルロイドで接着

さて武藤さんは、たくさんの土器の破片を接いで元の姿にしたい、と思い立ちますが、今のような接着剤のない時代のこと。悩んだあげく2種類の酸でセルロイドの板を溶かして接着する方法を薬局で教えてもらい、足りない部分は石膏でおぎなって土器を復元しました。



▲くわんぼうの土器

便利なものなどないころ、しかも土器を拾ってきて復元することなど、とても理解されるような時代ではありません。その後、数百点にのぼる土器を復元した武藤さんは第一人者として、その名を知られるようになりました。

写真提供・協力：尖石縄文考古館

Stay Smile 課題も多いけれど、一歩々成長していきたい

町新規就農支援事業

就農して6年目になります。

キクとトルコキキョウの花卉栽培を中心に野菜の栽培にも力を入れています。トラブルも多く課題に向かう毎日です。

昨年の豪雪は思い知らされました。雪対策の支柱を何本も立て万全と思っていたハウス3棟は豪雪により近くに行くこともできず、双眼鏡で1棟の全壊を確認した光景は、今でもはっきり目にうかびます。自然の力を知り、不安な思いで冬を過ごしましたが無事に今年の定植が始まりました。日に日に忙しくなってくる中、軽トラックの走っている光景が多くなり農業盛んだなーと感じて一段と自分も頑張ろうという気持ちになります。

トルコキキョウの栽培は今年3年目で本格導入となりました。過去2年の栽培では次々と課題が現れましたが、その都度なんとか乗り越えてきました。新たな一步ですが上手に栽培できるよう頑張っていきたいです。

今後は花卉、野菜とも徐々に栽培規模を増やしていくと考えていますが、自分一人で出来ることはないので、家族と一緒に仕事をしてくださる方にとってもいい仕事になるようにして成長していければいいなと思っています。



▲五味丈始さん(乙事)

Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ 富士見町読書活動推進委員会 事務局 ☎62-7930

富士見町子ども読書活動推進計画(第2次) ~今回は乳幼児についての活動のご紹介をします。~

① 乳幼児7か月10か月健診

毎月7か月10か月健診でファーストブックの紹介をしています。

読み聞かせの大切さや、読み聞かせの方法なども紹介!絵本を話題に家族で触れ合うきっかけになれたらと活動しています。

② ボランティアによる読み聞かせ活動

毎月1回程度、町図書館では行事を開催しています。年に4回程度、富士見町コミュニティ・プラザで大きな読み聞かせの行事を開いています。対象は乳幼児~小学生までと幅も広く、内容は、読み聞かせ、手遊び、リズム遊びなどを計画しています。スタンプカードも好評です。ぜひ遊びに来てください♪

③ 毎週火曜日・土曜日「町図書館おはなし会」

毎週火曜日・土曜日、午前11時~11時30分まで、町図書館おはなしの部屋ではおはなし会が開かれます。対象は0歳から小学生までと幅広く、ボランティアの皆さんと、図書館職員のおはなし会を開いています。毎月工作・お誕生会があります。

④ 読み聞かせのおすすめブックリストの紹介

平成26年度に寄贈された「おすすめのブックリスト」を館内に掲示しています。0歳~小学生まで年齢に分かれておすすめの本を紹介していますのでどうぞご活用ください。



▲ふじみ子どもの本の会による読み聞かせ



▲職員による町図書館おはなし会



▲館内で配布しているリスト

次回は保育園での活動を紹介します。